**横浜ラグビースクール現状について**

現在、2015RWCでの日本チームの活躍により空前のラグビーブームとなっており、ラグビーを始めたいと希望する子ども達が日本中で増えています。

　横浜ラグビースクール（以下YRS）においては、この空前のブーム以前から新規入校者が増えており、日本最大のスクールとして、常に入校者数を伸ばしてまいりました。それに合わせ、指導の質の向上のために指導員の学ぶ場を増やし、同時に選手のグラウンド使用回数も増やしました。こうしたことが、ジュニア世代で全国トップクラスの成績を保つことを可能にしていると自負しております。

また、成績のみならず、社会に出てからも活躍する優秀な卒業生を輩出し続けていることは、選手のみならず、保護者、指導員など関係者全員の努力の賜物であり、改めて関係者の皆様にお礼を申し上げます。

**収支状況について**

収支状況についてですが、下記収支推移表の通り、ここ2年赤字が続いており、このままの状態が続きますと、経済状況が好転しても経営が成り立たない、非常に厳しい状況にあります。

収支マイナス分については、これまでの積立残高から補填している状況です。この積立残高は周年行事に向けて積み立てているものですが、このまま取り崩し続けると、当然、積立分は底をついてしまいます。次回は2020年の50周年になりますが、このままでは記念イベントを実施できないばかりか、『神奈川県スクール発足団体、県のスクールの本家』としての責務を果たせない状況になります。

**支出状況について**

支出については下記のような推移となっております。

各項目での推移、主な要因を挙げます。

1. グラウンド使用料1.5倍（各学年練習時間/回数アップ）
2. 運営費については、2015から指導員活動費から充当で改善
3. 遠征補助は大きな増減なし
4. 協会登録費増加（昨年までは小学生以下は無料）、スポーツ傷害保険費用のアップ
5. 用具については人員比、消費税アップを考えれば適当
6. イベント、BBQ参加費値上げにより改善
7. 周年特別については、2014～2015に前日本代表監督エディージョーンズ氏2度招聘、45周年記念講演会実施などで発生

　グラウンド使用料アップ、登録・保険費アップ、運営活動費が主な要因ですが、運営活動費については、指導員活動費を充当し、指導員それぞれの負担をアップさせ、スクール会計を改善している状況です。

また、2015年度夏に突如持ち上がった『グラウンドの減免処置を廃止しよう』という公園側の意向については、関係者の署名や公園との話し合いにより、減免処置継続を勝ち取りました。

皆様のご協力に感謝いたします。もし、そのまま減免処置が廃止されていた場合は、グラウンド使用料が倍になり、運営自体がよりいっそう厳しい状況になるところでした。

一方、グラウンドの利用を少なくしてグランド使用料を減らすことで支出を抑えることは可能ですが、生徒数が増え各学年十分な広さがとれない状態であっても少しでも練習する機会を増やしていくことがスクールの使命だと考えており、その点についてもご理解をお願いいたします。

**収入状況について**

収入については下記のような推移となっております。

生徒数増加に伴い、毎年入校費は増えています。

しかし、前述までの収支改善のため、スクール運営負担の一部を指導員に負担していただき、指導員入校費と指導員活動費の徴収額を増額しました。

従来、指導員の自己負担は無いのが当たり前で、そのために指導員活動費は生徒入校費から賄っておりました。また、年度収支で繰越状況によって交通費を支給していた時代がありました。

しかしながら、ここ10年ほどは、指導員に対して、交通費（駐車場代）支給等無し、夏合宿・遠征など宿泊伴う場合は宿泊実費を徴収するようにしました。また、それとは別に、指導員から入校費・活動費も徴収し運営しているという状況です。

その理由に、人工芝化した保土ヶ谷グラウンドの使用料大幅アップにかかわらず、生徒の入校費をなるべく上げないで活動できる体制をなんとか保ちたい、それによりラグビーの普及に貢献したいという想いがあります。その結果として指導員からも入校費・活動費を徴収するに至っております。

一般的に、スポーツ団体や公共のボランティア活動の指導をおこなう指導員に対しては、交通費や謝礼など支払いするのが通常です。しかし、現在YRSでは、指導に掛かる費用全てを指導員本人、あるいはそのご家族が負担している状態になっていることをご理解ください。

そういう状況においても、スクール・指導員に対して、一部の保護者などから「利潤を得て活動しているのではないか？」「入校者が多いから儲かっているのではないか？」というご質問・ご指摘をいただいており、スクール・指導員一同心を痛めております。

保護者の皆様におかれましては、十分ご理解いただきたい点であり、ご理解していただいたうえで、ともに横浜ラグビースクールの一員として活動していっていただきたいと、強く望む次第です。

**まとめと今後**

繰り返しになりますが、現在のスクール運営については、生徒の入校費以外に指導員からも会費を徴収し、ぎりぎりでまわしている状況です。

しかしながらここに来て、消費税アップ後の市況の変化により、実質的にそれ以上の支出増が見込まれています。さらに、長距離バス運行事故等によるバス代金の度重なる、かつ大幅な値上げなどもあり、今後はもうした運営努力だけでは改善できない状況となっております。

　そのため、今回の入校費値上げとなってしまいましたが、保護者の皆様には、こうした背景をご理解いただき、今後も横浜ラグビースクールの一員として、活動をともにしていただけると幸いです。

また、入校費の見直しは、時代の状況とともに今後も実施していく可能性があることをご理解いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

　一方、永続的なスクール活動のために、下記についても検討していく必要があり、ここで状況をお伝えいたします。

1. スポンサー企業、あるいは、活動に協力していただける企業の調査
2. ＮＰＯ、あるいは、一般社団法人化
3. 地域スポーツ団体化
4. 国や県からの補助、スポーツ振興くじ（toto）の利用

①については、現在ラグビー用具メーカに検討をお願いしております。YRSグッズを集中的に扱っていただき、スクールにとってトータルとしてメリットを出していきたいと考えています。

②③④については、特に④につき支援団体や県に申請を出して補助金を申請したり、toto対応補助を受けられるか検討をおこないましたが、いずれも、団体として公式なものではないことが理由で認可はおりませんでした。そのため、県内他のいくつかのスクールや他スポーツ団体と同様に、ＮＰＯや社団法人化の検討も必要な状況になっております。

より良いスクール運営をおこなうことで、少しでも多くの少年少女がラグビーに携わり、より良い人間性を持った子ども達を育成していくこと、また、ラグビー競技自体を一過性のブームに終わらせないことを目標に、今後50年100年とこのスクールでともに歩んでいきたいと、スクール運営、また、全指導員は考えております。

そのためにも、選手・保護者・指導員の三位一体、さらにはOBやその保護者、応援くださる皆様と一つになって今後の活動をおこなっていかなければスクールの未来は厳しいものになります。是非とも皆様の大きな力添えとご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。